

都市農地の重要性をPR

10月16日、杉並区役所（阿佐谷南1-15-1）では、都市化の影響を受ける農地の現状や農地の重要性を知ってもらう「アグリフェスタ」が開催されました。この催しは、杉並区と世田谷区、そして両区を拠点とするJA東京中央が企画したもので、平成24年から行っています。会場には、農業に関するクイズコーナーや地元農家が丹精込めて育てた新鮮野菜の販売会、そして「都市農地を守ろう！」をテーマにしたトークセッションが行われ、多くの来場者で賑わいました。

杉並区内の農地は、昭和60年には約100haだったものが、平成28年4月1日現在、半分の約45haに、農家戸数は430戸が146戸になっています。これは、農業者の高齢化や後継者不足、相続税などの大きな税負担の影響によるもので、都市農地の減少が顕在化しています。

都市農地は、今後、発生が危ぶまれている首都直下地震の際には、有効な避難場所となります。また、貴重なみどりとして、まちに潤いを与えるなど景観としての価値もあります。さらに、区内小中学校においては、地産地消による学校給食への野菜の提供や食育として楽しみながら土に触れる場としても多くの役割を果たしています。



こうした都市農地が持つ多面的な機能を、より多くの方々に知ってもらうため、平成24年から「アグリフェスタ」を開催しています。都市農地の減少は、杉並区ばかりだけの問題ではありません。東京23区のうち農地が残っているのは、杉並区を含め11区です。JA東京中央は、杉並区と世田谷区を拠点としていて、両区の農業従事者が組合員であることから、アグリフェスタを3者で開催することになりました。

午前10時、杉並区役所を会場にイベントがスタート。家族連れで楽しめる野菜当てクイズや工作コーナー、トラクターの試乗会、野菜のフェイスペイントなど盛りだくさん。模擬店や地元野菜の試食や販売会も人気です。午後1時30分からは、「都市農地を守ろう！」をテーマに、田中良杉並区長、保坂展人世田谷区長、JA東京中央宍戸幸男代表理事副組合長の3者によるトークセッションが行われ、それぞれの立場から都市農地の様々な役割や重要性について話しました。



【報道機関 問い合わせ先】

産業振興センター：03-5347-9136